

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

群馬県 太田市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	-	4
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和15年6月30日 おおた太陽光発電所	令和15年6月30日 おおた太陽光発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
東京電力エナジーパートナー株式会社	-		

※1 行政区域内の需要に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量 (MWh)	H26	H27	H28	H29	H30
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	6,225	6,632	6,847	6,783	6,431
合計	6,225	6,632	6,847	6,783	6,431

	F I T以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入 (千円)	-	259,074	259,074

剰余金の使用について（具体的な使用実績事業を記入してください）

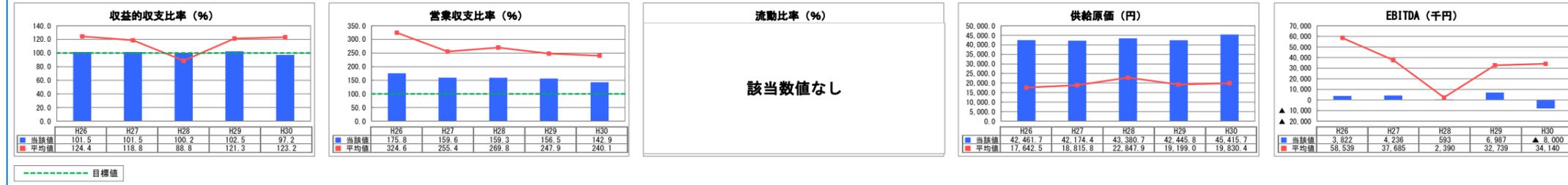
今後事業運営に必要な財源を確保しつつ、一般会計への繰り出しを通じて住民の生活環境の向上に努める方針としている。一般会計繰り出し 8,000万円  
特別会計移行前に、一般会計より太陽光発電設備事業用地購入等のため604,959千円を支払っているため、その弁済。翌年度繰越金 20,685千円

**分析欄**

1. 経営の状況について

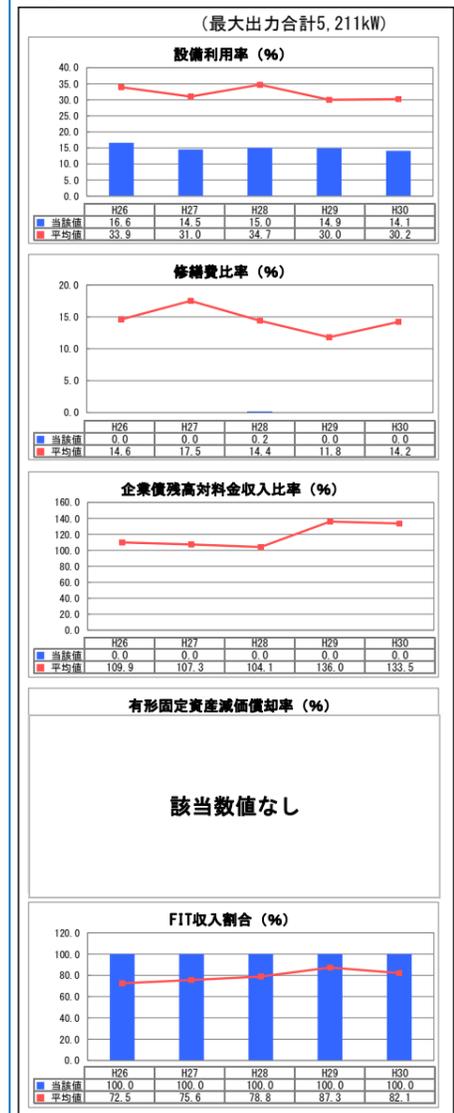
- 平成24年度に事業開始以来、機器の故障や自然災害などもなく、概ね日照も安定していることや、収入のすべてがFITからの収入であり、一定の電力収入が確保できている。
- 収益的収支比率において、100%を下回ったことについては、費用のうち、鶴生田町太陽光発電所排水路整備に伴う工事費等支出があったため。また、営業収支比率についても前年を下回ったことについては、同じく排水路整備に伴う工事費支出の影響が大きく起因していると考えられるが、次年度以降は工事も完了しているため、FITからの固定価格収入の安定した営業比率に還ると推測される。
- 供給原価については、天候不順による発電量に左右される部分があり、太陽光発電設備利用率についても天候に左右されているが、概ね平均値を示している。
- EBITDAについては、マイナスとなった主な要因は、収益の悪化ではなく、鶴生田町太陽光発電所排水路整備に伴う突発的な工事費等支出があったためであり工事も完了により次年度以降は収益性が確保された発電事業に還ると考えられる。

## 1. 経営の状況



## 2. 経営のリスク

### ●施設全体



### ●発電型式別



### 2. 経営のリスクについて

費用の主なものは、太陽光発電施設借上料、土地賃借料となっている。メガソーラーの3施設は事業実施に伴う市の事業リスクを低減するとともに安定的な施設運営を図るため、メンテナンス、施設の維持管理等を含むリース契約としており、負担リスクも少なく例年設備利用率は概ね一定している。今後は、学校設置の太陽光は単費で設置しているため修繕費の増加が見込まれる。

初期投資に要する経費について企業債を活用せず、電力料収入で分割して支払う契約としているため、企業債残高対料金収入比率が算出されない。

FIT収入割合が100%なので、今後の制度の動向に注意を払いたい。

### 全体総括

排水路整備工事による費用増で結果、昨年より収益的収支比率が減となった。健全な経営を保つために、着実な設備管理等の把握と、安定的な売電収入の収益による良好な経営状況の維持していくうえで、令和2年度を目標に経営戦略を策定し、FIT適用終了後は、事業の存続含め検討する必要がある。

※ 平成26年度から平成30年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT収入割合については、平成30年度の団体数を基に平均値を算出しています。